

## 収蔵庫 国宝障壁画 楓図

「桜図」の完成からわずか1年後、息子の久蔵の急死によって等伯が悲しみに暮れたと想像するのは難しいことではありません。当初、ショックを受けて等伯は絵を描く意欲を失いましたが、等伯の楓は、久蔵の絵の桜と同じ力で枝を伸ばし、木の下に巧みに配置された様々な花は、久蔵の桜と同じレベルの美しさと優雅さを持っています。等伯が55歳で完成した「楓図」は、息子の死の悲しみを乗り越え、秋の静かで穏やかな日を連想させる画家の強さをも示しており、本当に素晴らしい作品です。